

令和2年

目黒区教育委員会

第25回定例会会議録

(令和2年7月21日開催)

第25回目黒区教育委員会定例会会議録

開催年月日 令和2年7月21日

開催場所 教育委員会室

出席委員	教育委員会教育長	関根義孝
	教育委員会教育長職務代行者	櫻井道雄
	教育委員会委員	後藤幸子
	教育委員会委員	笹尾敦夫
	教育委員会委員	松村真理子

出席職員	教育次長	秋丸俊彦
	教育政策課長	檜本達司
	学校統合推進課長（八雲中央図書館長兼務）	
		関真徳
	学校ICT課長	今村茂範
	学校運営課長	濱下正樹
	学校施設計画課長	岡英雄
	教育指導課長	竹花仁志
	教育支援課長	細野博司
	統括指導主事	片山順也
	統括指導主事	石邑由紀子
	生涯学習課長	千葉富美子

書記		佐藤洋一
		森高健二郎

(議事日程)

- | | | |
|-------|------|---|
| 日程第 1 | 協議事項 | 令和 3 年度使用目黒区立中学校教科用図書の採択について |
| 日程第 2 | 報告事項 | 令和 2 年度目黒区教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価（令和元年度分）報告書（案）について |
| 日程第 3 | 報告事項 | 社会教育館等における利用申請及び施設使用料の支払期限延長について（新型コロナウイルス感染症拡大防止対応） |
| 日程第 4 | 報告事項 | 学校給食使用前食材等の放射性物質検査の結果について |

(午前9時30分開会)

- 教育長 令和2年第25回目黒区教育委員会定例会を開会いたします。本日の欠席委員、欠席職員はおりません。署名委員は、松村委員です。
- ただいま、傍聴の申請がありましたのでお諮りします。傍聴を許可したいと思いますが、よろしいでしょうか。

(各委員同意)

- 教育長 それでは、傍聴を許可することといたします。
- なお、以後、傍聴の申請があった場合には、22人までその都度許可することとし、委員の皆様にはお伝えすることはいたしません。
- それでは、日程第1を議題とします。

(日程第1 協議事項 令和3年度使用目黒区立中学校教科用図書の採択について)

- 説明員 (資料により説明)
- 教育長 ただいま、事務局から説明がありましたが、本日も前回、前々回に引き続き、令和3年度から目黒区立中学校で使用する教科用図書について、調査研究委員会報告書及び学校調査報告書を参考に、実際に教科書も見ていただきながら協議を進めていきたいと思えます。
- 資料1の採択日程のとおり、本日は6種目、音楽一般、音楽器楽、技術、家庭、英語、道徳について協議いたします。
- 8月18日の協議で各種目の採択候補を1社に絞る予定ですので、発行者数が多い種目については、本日一定の絞り込みを行っていききたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(各委員同意)

- 教育長 それでは、そのような形で進めていきたいと思えます。なお、これまでと同様、各委員及び私が発言する際に呼ぶ各教科書の発行者名については、お手元の資料2の発行者一覧に記載の協議用記

号で呼ぶことといたしますので、よろしくお願いいたします。

それでは、本日の協議に入ります。本日は6種目、音楽一般、音楽器楽、技術、家庭、英語、道徳について協議します。まず、音楽一般から協議を始めます。

音楽一般の発行者は2社ですので、本日は委員の皆様のご意見を伺うのみとし、8月18日の協議で1社に絞りたいと思います。

○委員 音楽一般については、「調査研究委員会報告書」の意見などを参考にしつつ、実際に教科書を見比べました。

まずG社の教科書についてですが、「Let's Try!」のコーナーでは、音楽をつくり、表現を楽しむための工夫がなされていました。ただ、ソネットなどの音楽用語の紹介については、初心者には分かりづらいので、説明に工夫がほしかったです。また、「何が同じで、何が違う」のコーナーでは、異なる音楽を聴き分ける方法について記載されており、おもしろいと思いましたが、対話による学びにつなげるために更なる工夫がほしかったです。

次にH社の教科書についてですが、学習内容のページでは、知識や技能を習得する上での課題が整理されており、見通しをもって学習を進めるための工夫がなされていると思いました。また、「リズムゲーム」、「リズムアンサンブル」、「リズムチャレンジ」などのコーナーで楽しみながら音楽の基礎を学ばせる工夫がなされていると思いました。さらに、「深めよう！音楽」のコーナーでは、キャラクターに吹き出しを用いて生徒の関心を引く工夫が見られました。

○委員 2社の教科書を見ましたが、掲載されている情報量も同様であり、甲乙つけ難いと思いましたが、誰でも楽しめるものを選びたいと思いました。

その点から申し上げますと、H社の教科書の方が、表紙のイラストや選曲により、生徒に親しみやすいものであるという印象を受けました。

また、H社の教科書は、巻末に合唱曲がまとめて掲載されています。合唱は、音楽授業の醍醐味の1つであると思しますので、その合唱の楽曲が多数掲載されている点からも、H社の教科書は生徒にとって親しみやすいものではないかと思いました。

G社の教科書は、定番の曲を収録していますが、現代の生徒たちには古く感じられるのではないかと思いました。

○委員 H社の教科書については、どこで何を学ぶのか明確であり、見や

すい工夫がなされていると思われました。また、G社の教科書に比べて、H社の教科書は説明が詳細で、分かりやすいと思われました。

それから、H社の教科書の「My Voice!」のコーナーでは、歌唱法をイラストで説明しており、また、変声期の生徒への対応も分かりやすく示されているなど、対応がきめ細やかだと思われました。

○委員

どちらの教科書も学習指導要領の改訂ポイントを押さえつつ、声を出すためのポイント、グループでの歌唱方法、表現したい音楽の作り方など、音楽を愛好する心情を育む工夫がなされています。

H社の教科書については、「指揮をしてみよう!」のコーナーが丁寧に記述されていると思われました。目黒区では合唱コンクールを1年生のときから実施していますので、この教科書は指揮者の手助けになると思われました。また、郷土の民謡も丁寧に書かれているほか、学習内容とSDGsとの関連性を示している点もよいと思われました。

○教育長

音楽一般の教科書については、生徒たちの歌いたい、創作したい、鑑賞したいという気持ちを刺激する教科書であってほしいと思います。

G社の教科書については、目次に続いて当該教科書で学習する楽曲などが一覧となって、それぞれの狙いが図示されていますが、その狙いの表記が抽象的で分かりづらかったです。そして歌唱の際の姿勢などの技術面の説明もありますが、なぜそうするとよいのかという記述が十分でないところがありました。特徴的なところとして、各国の声で表現する音楽について、それらの間の共通点と相違点を感じさせ、考えさせる課題はよいと思われました。

H社の教科書についてですが、導入部分がよくできていて、巻頭ページに音楽につながるのある分野の著名人から中学生へのメッセージがあり、音楽とは何かについて専門家からの一言が記載され、目次の後には、当該の教科書で学ぶ内容とその狙いが見開きの一覧になっているため、生徒たちにも伝わりやすいつくりになっていると思います。また、歌唱の際の姿勢や呼吸法などの技能面の解説をする中で、変声期について触れているところは、中学校の教科書としてよくできていると思われました。

では、先ほど申し上げたとおり、音楽一般については、8月18日の協議で1社に絞りたいと思います。

ここで、議事の都合上、暫時休憩とします。

(午前9時46分休憩)

(午前9時47分再開)

- 教育長 休憩前に引き続き協議を再開します。
次に、2番目の音楽器楽について協議します。
音楽器楽の発行者は2社ですので、本日は委員の皆様のご意見を伺うのみとして、8月18日の協議で1社に絞りたいと思います。
- 委員 音楽につきましては、一般と器楽を共通の出版社の教科書にしたほうがよいというお話を伺っていますが、先ほど申しあげましたG社とH社の教科書と同様の比較を行った結果、私は、H社の教科書のほうが音楽に親しむという配慮がされているという印象を受けました
- 委員 音楽の一般と器楽は連動しているため、同じ会社の教科書がよいと思います。私は、リコーダーや伝統文化である太鼓がそれぞれの教科書でどのように扱われているか比較検討しました。その結果、基本的な事項の説明については、優劣がないと思いました。ただ、H社の教科書は、各レッスンごとに何が大切なのか明記されているなど、学ぶ目標がはっきりしており、大事なことが何か分かりやすい教科書だと思いました。
- 委員 学校調査報告書などを読みながら2社の教科書を見比べましたが、どちらも扱っている楽器は同じであり、よくできていると思いました。学習指導要領において、伝統的な歌唱や和楽器を扱う際の配慮事項として、生徒が国の郷土の伝統音楽のよさを味わい、愛着を持つことができるように工夫する旨示されていたので、その点を重点的に見比べてみました。
H社の教科書については、楽器の取扱だけでなく、姿勢と礼儀についても説明されていたところがよかったです。また、三味線と三線の違いなど、和楽器に興味を持たせる工夫が面白かったです。
G社の教科書については、楽器の違いに関する記載など、面白い題材もありましたが、学習指導要領に新たに示されたポイントを踏まえすと、H社の教科書の方がよいと思いました。
- 委員 G社の教科書については、「Let's Play!」、「Let's Try!」のコーナーや名曲旋律集で特徴的な楽曲が多い

ことや生徒への主体的な学びを引き出す工夫がなされていることが印象的でした。また、「何が同じで、何が違う？」のコーナーも面白かったです。

また、巻末資料は、5種類の打楽器の演奏写真、リコーダーの運指表、ギター表、キーボード表が分かりやすく説明されており、技能を習得させるための工夫がなされていると思いました。

次にH社の教科書についてですが、全体的に丁寧な説明がなされているという印象を受けました。特に巻頭の学習内容のページでは、生徒が見通しをもって学習できる工夫がなされていると思いました。また、豊かな音楽を創造させるための工夫やリズムアンサンブルなど、音楽をより深く理解しようとする生徒のための工夫がなされている点もよいと思いました。

○教育長

G社とH社の教科書について合わせて意見を述べます。扱う楽器が7つありますが、この掲載の順番が両方で全く異なっていました。G社の教科書では、初めにリコーダーから尺八までの管楽器が掲載されて、次にギターから三味線までの弦楽器が掲載されて、最後に太鼓の打楽器という流れで整理されている一方、H社の教科書については、和楽器と洋楽器で分類したようですが、掲載順が分かりづらいところがありました。

ただ、H社の教科書では、カスタネットやタンバリンなどの楽器についても、丁寧に触れられている点は評価できました。

この2社のうち、どちらの社を採択するかについては、悩ましいところですが、音楽の授業では一般と器楽の教科書を合わせて使用する場面も多いと聞いていますので、その点も考慮することが必要であると考えています。

では、音楽器楽についても、8月18日の協議で1社に絞りたいと思います。

ここで、議事の都合上、暫時休憩とします。

(午前9時55分休憩)

(午前9時56分再開)

○教育長

休憩前に引き続き協議を再開します。

次に、3番目の技術分野について協議します。

○委員

技術家庭の教科書については、技術分野と家庭分野に分かれて

いて、同一の会社の教科書であることが望ましいという意見を聞いています。私は、実際にコンピュータの情報技術について各社の教科書で勉強した上で比較検討しました。

「情報通信ネットワークの仕組み」の項目では、I社の教科書、G社の教科書、H社の教科書の順に説明が理解しやすかったです。特に、I社の教科書の用語説明は、分かりやすく記載されていると思いました。

また、I社とG社の教科書では、「プログラミング」の項目について詳細に説明されており、G社の教科書には自習例が豊富に用意されていました。

この教科書については、独学による勉強が難しいと思いましたが、用語解説が充実しているI社の教科書がよいと思いました。

以上から、I社とG社がよいと思いました。

○委員

結論から申し上げますと、G社とI社がよいと思いました。

まずG社の教科書については、基礎的な技術の習得について「TECH Lab」の項目にまとめ、技能習得のサポートで工夫がなされている点がよかったです。

また、ガイダンスに「最適化の窓」のコーナーが設けられ、社会からの要求、安全性、環境への負荷、経済性という4つの視点で、その技術が最適なものかどうか客観的に確認できるつくりとなっており、主体的に学べる工夫として評価しました。

さらに、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて生活を工夫し、創造しようとする実践的な態度を育むという目標に合致したつくりとなっている点を評価しました。

次にI社の教科書については、ガイダンスが丁寧に説明されている点や、社会や環境との技術の関わりについて話し合わせることにより、主体的、対話的な学びを促している点がよかったです。

また、作業工程がPDCAサイクルに沿って記載されており、中学生からPDCAサイクルを身につけるための取組として評価しました。

○委員

各社の教科書いずれも素晴らしい内容であり、絞り込むのが難しかったです。

まずG社の教科書についてですが、巻頭のガイダンスで、学年の学習を見通せるつくりとなっていることや、「最適化の窓」のコーナーにより、主体的な学びを促進する点がよいと思いました。また、「TECH Lab」のコーナーでは、技術を生かした問題

解決を目指しており、基本的な技能の手順が分かりやすく紹介されて、深い学びにつなげる工夫がなされていると思いました。

次にH社の教科書についてですが、各ページの下に「技能チェック」のコーナーがあり、生徒自身が実作業の確認をしながら進めるつくりとなっているため、基礎的な知識や技能の習得に役立つ点を評価しました。また、各編の終わりに「まとめ」のコーナーがあり、自身の技術のプラス面だけでなく、マイナス面を考察させるつくりとなっている点を評価しました。

最後にI社の教科書についてですが、全体にわたって学習の流れが丁寧に説明されている点がよいと思いました。また、單元ごとに課題に関するイラストや専門家のコメントが掲載されており、生徒の学習の参考になる点についても評価しました。

結論としまして、この3社の中から、G社とI社を選びました。

○委員

技術分野は実用的な科目ですので、学校での実習に使いやすいかどうか、また、生徒が自分自身で作業するのに十分な説明等があるかどうかという観点から検討しました。また、技術分野の中にも項目がありますので、その各項目に偏りが無いかという点についても見ました。

結論として、私はG社が優れていると思いました。また、次にH社が優れていると思いました。

まずG社の教科書についてですが、各項目ごとに丁寧な説明がなされており、情報量も適切だと思います。作業手順の説明に写真等が付されており、教科書のみ参照しても作業を行える印象を受けました。学校における学習の活用はもちろんのこと、卒業後も活用できる優れた教科書だと思います。

次に、H社の教科書についてですが、G社の教科書に比べて情報量が多いと思いました。

ただ、H社の教科書については、生物育成などの部分の分量が若干少なく偏りを感じました。また、技術分野では、全ての情報を教科書に掲載する必要はなく、生徒が興味を持つきっかけを教科書に掲載すれば十分だと考えておりますので、G社の教科書は適切な情報量が備わっていると思えます。

以上から、G社、H社という結論に至りました。

以上です。

○教育長

技術分野については、学習内容の全体構成が分かりやすく示されているかどうか、学習を進める上で必要な技能ができるだけ具

体的に示されているかどうかという観点から見ました。

選択したのは、G社とH社です。

まず、G社の教科書については、大きく4つの技術項目について学ぶことと、それぞれの項目において具体的に何をどう学ぶかということが、巻頭の見開きの目次で一覧できるようになっています。そして、それぞれの目次に続いて、各項目についてガイダンスがなされて、技術分野を学ぶことの意義と可能性等がよく示されています。

また、巻末にはプログラミング手帳が綴じ込まれており、プログラミング言語の具体例や高校で学習する例が示されている点が特徴的でした。

H社の教科書についてですが、別冊のハンドブックがついてまして、技術分野の各項目の学びを進めるに当たって、必要な基礎的な技能について具体的に分かりやすくまとめられています。教科書に別冊がついていることに関しては、保護者や教員から紛失して困るという意見もありますが、中学生については紛失しないよう指導することが大切であり、特に問題とは思っておりません。また、プログラミングについての記述も、他社の教科書に比べて充実している点を評価しました。

出ました意見を集約いたしますと、G社を推された方が5名全員、I社を推された方が3名、H社を推された方が2名となりました。

今回、技術分野3社のうち、2社に絞り込みたいと考えており、推された方の人数により絞り込みますと、アルファベット順でG社とI社ということによろしいでしょうか。

(各委員同意)

○教育長 それでは、技術分野については2社に絞り込まれましたので、8月18日の協議ではG社、I社を採択候補として、1社に絞るという日程でまいりたいと思います。

ここで、議事の都合上、暫時休憩とします。

(午前10時14分休憩)

(午前10時15分再開)

- 教育長 休憩前に引き続き協議を再開します。
次に、4番目の家庭について協議します。
- 委員 家庭分野については、いずれの教科書も調理実習に関して記載があったため、その項目を見比べました。その結果、G社とI社の教科書がよかったです。見開きで、フローチャートにより手順が記載されているため、見やすいほか、副菜のメニューについても記載があること、調理技術の科学的裏付けについて記載があることがよかったです。
- また、「持続可能な社会を目指して」の項目の取扱いについて、G社とI社の教科書は、H社の教科書よりも多くの紙面を割いている点もよかったです。
- 最後に、I社の教科書では、「災害から命と生活を守るために」の項目で、防災・減災、避難所の生活、生活の再建、その備えまでが一覧で分かりやすく記載されており、その点を評価しました。
- また、G社の教科書でも、防災・減災手帳が添付されており、防災・減災に重きを置いたつくりになっている点を評価しました。
- 委員 まず、G社の教科書についてですが、家庭分野のガイダンスで、持続可能な社会を築くことを使命とすることを明示している点が良いと思いました。また、生活に生かすプロセスを繰り返し強調しており、生徒自身の主体的な学びにつなげる工夫が見られました。さらに、調理実習の目標手順が、簡潔な文章とイラストで表現されているため、読みやすかったです。最後に、実習例のページの終わりに、「私のオリジナル」のコーナーがあり、創造性を引き出すための工夫がなされている点を評価しました。
- 次にH社の教科書についてですが、導入部分では、小学校の家庭科とリンクする課題や自立度を確認するコーナーが設けられており、生徒の主体的な学びにつながる工夫だと評価しました。また、「センパイに聞こう！」のコーナーでは、実際に社会で活躍する人の意見を参考に、生徒が主体的に考察できる工夫がなされており、良いと思いました。
- 最後にI社の教科書についてですが、各単元の初めに、「小学校での学び」のコーナーがあり、小学校で学んだことの復習ができる点を評価しました。また、調理のページでは、調理実習の手順図のほか、エコクッキング、衛生、安全などについて記載がある点が、基礎知識や技能の習得につながる工夫だと評価しました。最後に、

実習例にある「調理方法Q&A」のコーナーでは、調理に関する質問と、それに対する回答が掲載されており、これも生徒自身の力を育む工夫だと評価しました。

以上、3社の教科書いずれも遜色ないと思いましたが、G社とI社を選択しました。

○委員

3社の教科書を比較し、いずれの教科書も、盛り込まれている情報の内容と量については、大差ないと思いました。

家庭分野は、生徒が今後長い生活を送る上で必要不可欠な知識と技能を習得するという実用的な科目だと考えていますので、実用的な教科書であるかどうかを重視して選びました。

その結果、GとH社が優れていると思いました。

まず、G社の教科書についてですが、衣食住についての記載があり、後半に家庭についての記載があるという構成となっており、とても実用的なつくりになっていると思います。家庭の項目から授業を行うと、抽象的な話から始まるので、生徒の興味を引くことができるか気になりました。現代社会においては、価値観が多様化しているため、家庭の考え方も多種多様であり、捉え方が難しいものだと思います。家庭分野という科目に興味を持たせるのであれば、衣食住の実用的なところからはじめるとよいと思いました。食については、献立が豊富に記載されており、基本的な料理についても調理方法が丁寧に解説されていると思いました。衣と住についても、それぞれ実生活に直結する知識が中心になった記述だと思いました。衣食住の3分野について持続可能性や環境に関する記述があるところも、将来に関する内容になっていると思いました。巻末の防災・減災手帳も、切り離して利用できるところが便利だと思いました。

次に、H社の教科書については、年中行事の一覧の口絵や食品の種類成分表がついているため、分かりやすさという点で好感を持ちました。

I社の教科書については、G社やH社のものと比較すると、実用的なページより説明の文章が多いという印象を受けました。

○委員

私は、家庭分野では、消費生活と環境について各社の教科書を比較検討しました。ページ数は、H社の教科書が42ページ、I社の教科書が37ページ、G社の教科書が22ページでした。

I社の教科書では、クーリング・オフ制度とJADMAマークを対比しながら詳しく説明している点が面白いと思いました。この

点、G社の教科書では、クーリング・オフとJADMAマークは並列で記載しており、JADMAマークの説明に不明瞭な部分があると思われました。H社の教科書では、クーリング・オフの説明はありますが、JADMAマークとの関係については記載がありませんでした。

また、悪質商法の手口例では、I社の教科書は6例をイラストにより説明しており、中学生が悪質商法に遭わないためのアドバイスが記載されていました。G社の教科書では、10例をイラストにより説明しており、消費トラブルの防止についての記載もありました。H社の教科書では、悪質商法の3例とインターネットトラブルの3例を提示していますが、予防の方法に関する記載がはっきりしていませんでした。

また、金銭管理の項目では、I社の教科書は、赤字になった際の節約方法について記載しており、G社の教科書は、小遣いで欲しいものが買えない場合の考え方について記載しており、H社の教科書は、欲しいと思う理由を再確認させるつくりとなっており、3社の教科書とも優劣なく面白いと思われました。

また、高齢者との関わりについても注目しました。I社の教科書では、地域に暮らす高齢者というテーマで、4ページあたり詳しく掲載されていました。G社の教科書では、「家族や地域の高齢者の関わり」の項目で、2ページにわたり掲載されていました。H社の教科書では、高齢者と障害者を一緒に取り扱っていました。

それから、全体的にこの3社を比較した結果、I社の教科書では、テーマの初めに学習の目標や、テーマに関する設問があり、何を学ぶかが明瞭で、「小学校での学び」のコーナーで学習を振り返り、他教科との関連について詳しく掲載していると思われました。G社の教科書では、各テーマの初めに目標と「考えてみよう」のコーナーがあり、学ぶ目標を明瞭化しています。また、小学校との関連が簡潔に記載されており、他教科との関連も記載されていました。

以上のことを勘案すると、私はI社とG社がよいと思われました。

○教育長

家庭分野については、技術分野と同じ発行者の教科書がよいという話もありますが、その根拠が明確ではありませんので、私はその点は特段の考慮をせずに検討しました。

選択したのは、G社とI社です。

G社の教科書については、同社の技術分野の教科書と同様に、見開きの目次に続いて家庭分野で学ぶ各項目について、ガイダンス

がなされて、家庭分野を学ぶことの意義と可能性がよく示されています。

それから、巻末に家庭分野と他の教科とのつながりが図示されていて、生徒たちの学びを広めていくために有用な工夫がなされていると思います。

また、イラストの男女の服装の色が、性別により固定されることなく、この点について編集者の姿勢、配慮が伝わってきました。

次に I 社の教科書についてですが、構成が学習指導要領に沿って家族、家庭生活から始まり、衣食住の生活から消費生活、環境へとオーソドックスなつくりになっており、教える側には扱いやすい教科書かと思われます。

その中で、「中学生の消費者被害」の項目があり、また巻末には、折り込みページを含めて 8 ページにわたり、災害と日常生活について考えさせる記述があるところが有用であると思いました。

出ました意見を集約いたしますと、G 社を推された方が 5 名全員、I 社を推された方が 4 名、H 社を推された方が 1 名となりました。

今回、家庭分野 3 社のうち、2 社に絞り込みたいと考えており、推された方の人数により絞り込みますと、アルファベット順で G 社と I 社ということでよろしいでしょうか。

(各委員同意)

○教育長 それでは、家庭分野については 2 社に絞り込まれましたので、8 月 18 日の協議では G 社、I 社を採択候補として、1 社に絞るという日程でまいりたいと思います。

ここで、議事の都合上、暫時休憩とします。

(午前 10 時 32 分休憩)

(午前 10 時 33 分再開)

○教育長 休憩前に引き続き協議を再開します。

次に、5 番目の英語について協議します。

○委員 調査報告書の内容を参考にし、教科書を見比べるという形で検討を進めました。

一通り各社の意見を述べますが、その中でも特に、G社、H社、I社がよいと思いました。

まずG社の教科書についてですが、小学校で習った英語表現を「ウエルカム・トゥ・ジュニアハイスクール」のコーナーで振り返る工夫がなされています。また、自分の紹介や相手への質問を通じて、基本的な知識や技能を学ばせる取組や工夫もみられました。また、「Grammar for Communication」のコーナーにより、自習による自身の文法力を向上させるための工夫がなされていました。また、巻末の「CAN DO リスト」のコーナーでは、学んだことについて自己評価できるつくりとなっていました。

次に、H社の教科書についてですが、巻頭の「Get Ready」のコーナーで小学校の復習を行うため、中学校の英語学習をスムーズに開始できる工夫がなされています。また、単語の使い方や意味の違いを楽しく学べるよう、イラストを用いるなどの工夫もなされています。「Our Project」のコーナーでは、マッピングや原稿づくりによりスピーチ能力を向上させる取組がありました。それから、各プログラムの中に「Steps」のコーナーがあり、ペアで英語によるやり取りを行う対話的な学習のための工夫も見られました。

次にI社の教科書についてですが、「GET Plus」のコーナーで、対話によるコミュニケーションを促進する工夫が見られました。また、「USE」のコーナーでは、「読む」、「書く」、「話す」、それぞれの技能を活用するための工夫が見られました。また、教科書の各ページの下に、小学校で学んだ語句が記載されていますが、生徒が繰り返し練習する気持ちを引き起こす工夫がほしいと思いました。

次に、J社の教科書についてですが、各レッスンの流れが統一されているため、生徒たちにとって学習を進めやすいつくりだと思いました。また、各レッスンの終わりに、「Useful Expressions」のコーナーがあり、日常生活で役立つことが学べるつくりとなっています。

次に、K社の教科書についてですが、冒頭の「Let's Be Friends！」で小学校の学びを振り返るつくりとなっています。そして、その終わりに中学校の英語の学び方のQ&Aがあり、スムーズに学習を進めるための工夫がなされていると思いました。

また、各章の終わりには、「You Can Do It!」のコーナーがあり、「読む」、「書く」、「話す」、それぞれの学習状況や弱点を見つけるためのつくりがなされていました。

最後にL社の教科書についてですが、各章のパートごとに技能や知識の習得を手助けするための工夫がなされていました。また、キャラクターの吹出しを多用することで生徒の関心を引き、学習意欲を高めるための工夫も見られました。

○委員

英語に興味を持てる内容になっているかどうか、英語の習得が楽しみとなる工夫がなされているかどうか注目し、各社の教科書を比較しました。

また、基本的な文法を身につける必要があると思いますので、英語特有の文法構造を理解させる工夫があるかどうかについても、検討の材料としました。

その上で結論としまして、G社とI社の教科書が優れていると思いました。

まずG社の教科書についてですが、この教科書は他社の教科書に比べて判型が少し大きく、1ページの情報量が充実していると感じました。

また、親しみやすいイラストやキャラクターが用いられているため、生徒の興味を引くことができると思います。

さらに、「Grammar for Communication」の項目が随所にあり、文法についても適切にまとめられている印象を受けました。

加えて、この教科書は目黒区で採用されている小学校の英語の教科書と共通していると聞いておりますので、その点のつながりもよいと思いました。

また、巻末には読物がありまして、英語を学習するだけでなく、国際的な出来事など、外国の知識を習得することもできる工夫がなされていると思いました。

以上の点でG社の教科書が優れていると思いました。

次にI社の教科書についてですが、親しみやすいイラストが満載されており、生徒の興味を引くことができるものだと思います。レッスンごとにドリルや文法のまとめの項目がありまして、文法についても分かりやすく整理されていると感じました。

対話以外に様々なジャンルの文章が随所にあり、その内容について生徒が興味を持って読むことができると思いました。

付録に表現がまとめられているページがありまして、これを利用すれば生徒が語彙を増やすことができると思いました。

また、巻末には読み応えのある英文が掲載されていますので、やる気のある生徒は、これに挑戦することによって英語力がより身につくと思いました。

以上の理由で、G社とI社とさせていただきます。

○委員

中学校卒業時の英語力の目標値は、生徒の50%以上が英検3級以上を取得することとなっていますが、未だに達成していません。生徒全体の英語力を向上させるためには、小学校の英語学習を復習してから進めることが不可欠だと思います。各社の教科書を見たところ、全ての教科書に小学校での振り返りに関する記載がありましたので、中学校では、「読む」、「聞く」、「話す」、「書く」の4技能を基礎から学べる教科書がよいと思ひまして、私はG社とI社とH社を推薦したいと思ひます。

まずG社の教科書についてですが、Stage1のUnit0から5までは、小学校の学習の整理・発展について、特にUnit0では、英語の基本である発音、書き方の基本、辞書の使い方などの振り返りができるつくりとなっています。また、巻末では小学校で学んだ単語と教科書に出る単語がまとめられているなど、自己学習ができるつくりとなっています。さらに、Stage1のUnitの各パートには、「Enjoy Communication」のコーナーがあり、例題を参考に、グループで話し合いながら学ぶなど、小学校の学習の振り返りがあり、分かりやすい教科書のつくりになっていると思ひました。

次にI社の教科書についてですが、小学校の学習の振り返りが設けられているほか、日常生活の場面設定で、英語を学習する構造としており、また、小学校や教科書で学習する表現英語がまとめられた付録が設けられるなど、英語による会話を重視したつくりになっていると思ひました。

最後にH社の教科書についてですが、小学校の復習を「Get Ready」のコーナーで小学校の復習を行うほか、文字が大きいため、見やすく、道案内や店内放送など、実生活での英語表現を重視しているつくりとなっています。

○委員

私は、「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」の4技能を育成し、英語を用いる意欲を引き出してくれる教科書がよいと思ひました。

会話をする意欲を引き出すためにも、教科書には、すぐに使えるフレーズが盛り込まれていることが重要だと思います。また、文法について分かりやすく丁寧な説明がなされていることが重要だと思ひまして、これらを主なポイントとして比較検討しました。

結論から申し上げますと、G社、K社、L社の3社を選びました。小学校から中学校への移行がしっかりしている点、生徒の会話への興味を引き出すという点、文法の説明が丁寧である点は、3社いずれの教科書もしっかりしていると思ひました。

G社の教科書の特徴としては、「Stage Activity」のコーナーで、3年生にディベートでグループワークが設定されている点や、「Let's Listen」のコーナーでラジオの防災情報を聞くなど、日常生活で活用できる内容がある点です。

K社の教科書の特徴としては、英語の学び方ガイドが充実しており、ガイドの最後に「間違いを恐れずに」という記載がありました。語学の習得で一番ハードルになるのは、人前で恥をかきたくないという気持ちだと思うので、この記載は重要だと思います。

L社の教科書の特徴としては、「Let's Talk」のコーナーでして、ファーストフード店での持ち帰りの表現など、日常生活の中で活用できる表現が多く設けられている点がよかったです。また、文法が丁寧に説明されている点もよかったです。

ただ、この3社の教科書いずれにも共通していますが、QRコードによる発音がゆっくりすぎると思ひました。日常では、これほどゆっくり喋らないため、この点を改善し、自然な速度での発音であれば、よりよい教科書になったと思ひました。

○教育長

英語については、小学校時代の学びとの接続、そして英語に苦手意識を生じさせないこと、それらの観点からG社、H社、I社の3社を選択しました。

まずG社の教科書については、1年生の教科書ですが、小学校で学んだことの振り返りから入り、小学校で習った単語については、各ページの脚注に明示されていることで、1年生にとって安心感を覚えるつくりとなっていると思ひます。

そして外国語を学ぶ上で辞書の使い方をマスターすることが基本になりますが、大きな判型を活かしているため、分かりやすく、辞書を使った小問題もあり、親切なつくりになっています。

また、巻末の単語集なども整理されており、英語に親しめるように配慮されている教科書になっています。

H社の教科書については、グループやペアで考え、発表し合う機会が多数設定されていまして、英語が互いの思いを伝え合うコミュニケーションツールであることを意識させるつくりになっている点が特徴的でした。そして、各単元の初めで、新しく出てくる、身につけるべき表現について、その表現がどのような場面で使われる表現なのか視覚的に分かるよう工夫がなされている点がよいと思いました。

I社の教科書については、巻頭部分で教室で使う英語として、先生から生徒へ、生徒から先生へ、また、生徒同士の間の会話でよく使われる表現が一覧で示されています。

また、本文にも対話形式の文が多く見受けられるほか、ALTとのやり取りを前提とした課題が幾つも設けられ、実際にコミュニケーションをとる場面で活用する力をつけることのできる教科書になっていると判断しました。

出ました意見を集約いたしますと、G社を推された方が5名全員、I社を推された方が4名、H社を推された方が3名、K社を推された方が2名、L社を推された方が1名となりました。

今回、英語5社のうち、3社に絞り込みたいと考えており、推された方の人数により絞り込みますと、アルファベット順でG社、H社、I社ということによろしいでしょうか。

(各委員同意)

○教育長 それでは、英語については3社に絞り込まれましたので、7月28日の協議で2社程度に絞り込みを行いまして、8月18日の協議で1社に絞るという日程でまいりたいと思います。

ここで、議事の都合上、暫時休憩とします。

(午前10時56分休憩)

(午前10時57分再開)

○教育長 休憩前に引き続き協議を再開します。

本日最後の道徳について協議します。

○委員 道徳については、先生にとっても難しい科目だと思えます。教科書も多数あり、多彩な文章を読みました。

道徳の教科書は、他の科目と異なり、生徒に学ばせるテーマを直接解説するものではなく、テーマの理解に有益な文章を読ませる間接的な資料になりますので、選択の幅が広く、選ぶのが難しかったです。

ただ、低学年では、多様な解釈が生じ得る文章より、簡潔なものがよいと思いました。高学年では、多少解釈の幅が広がる文章も有益だと思いました。

また、文章の内容が極端な状況のものばかりになりますと、自分に置き換えることが難しくなると思います。特に低学年は、自分の身近に起こり得ることを題材とした文章からはじめることが適切だと思います。

また、文章の分量が適切であるかどうかも考慮しました。

以上の観点から、中学生の道徳の授業にふさわしい文章が多く掲載されていると思う本を選びました。

結論としましては、H社、G社、K社が適切だと思いました。

まず、H社の教科書についてですが、巻頭の目次の次ページで、学びの目的のテーマが明確にされているところが優れていると思いました。

また、内容についても、SNSの利用方法、いじめの問題など、日常的に生徒の身近なものが多く取り上げられていました。

また、「学びの道しるべ」のコーナーで、思考を深めるために効果的な指摘がなされていると思いました。特に1年生の教科書の中で、日常生活、友情、生き方等、考えさせる題材が適切に配置されていると感じました。

次にG社の教科書についてですが、巻頭に「1年間で学ぶこと」が明示されており、分かりやすい印象を受けました。

また、1年生の題材として、平易な日常の事柄を取り上げているため、考えさせられることが多く、よい印象を受けました。

最後にK社の教科書についてですが、イラスト、漫画、図を多用しており、生徒に親しみやすい構成だと思いました。話題については、歴史、国際、スポーツ関係、芸能関係など、身近な事柄の内容がバランスよく選ばれていると思いました。

○委員

道徳については、先生のアドバイスを基に話し合い、生徒自らが他の人の立場、意見を理解するとともに、尊重し、ともに社会の中でよりよく生きていける力を養える教科書がよいと思います。具体的には、話し合いと振り返りを通して生徒自ら考えて道徳的価値

観を養える教科書であり、いじめ問題を重視し、多角的な視野からこの問題を捉えている教科書です。

まずG社の教科書についてですが、巻頭で、話合いの手引きが分かりやすく具体的に記載されていました。

それから、1年間で学ぶ4つのテーマ分類が明瞭でした。始める前に「もっとすてきな「私」に出会うために、中学生になってやってみたいこと」を記入する欄があり、後に心の変化を確認できるつくりもよいと思いました。

また、各テーマの文章の後の設問に「考えよう」、「自分を見つめよう」の欄が設けられており、話合うことを重視している姿勢がみられました。それから、自分の考えを記入する「つぶやき」の欄が設けられており、振り返りを重要視していると思いました。

さらに目次では、「いじめのない世界へ」と「いのちを考える」の項目に印がついており、いじめ問題を重視していると思いました。

巻末にはテーマの振り返りや、自分の振り返りの項目を設けているほか、心情円で心の変化を可視化する工夫もみられました。

次にJ社の教科書についてですが、巻頭で道徳を学ぶことが詳細に掲載されています。また、学ぶテーマが10項目あり、その中で「よりよい社会と私たち」という項目に囲いがされており、いじめの問題について重視していると思いました。

それから、道徳ノートに自分の気持ちの記入欄や、話合いの記入欄があり、自分の気持ちを顧みることができる工夫がなされていました。

最後にH社の教科書についてですが、巻頭の「道徳科で学びを深めるために」の項目で、問題に気付かせる課題設定となっており、その問題について考え、話し合い、深めるつくりとなっています。また、目次に掲げられている30テーマのうち、11テーマがいじめや人権問題であって、これらの問題に重点を置いていると思いました。

また、「やってみよう」のコーナーでは、お互いが相手を演じて学習する取組がありました。他の人の気持ちになり、演じてみるという面白い試みでした。

また、巻末の資料に掲載されている有名人の一言も面白いと思いました。

以上のとおり、私はG社とJ社とH社を選びました。

○委員

道徳は、知識・技能の習得ではなく、自分を見つめ、物事を多面的、多角的に捉え、多様性を受け入れながら、よりよく生きるために深く考える力を養う教科書ですので、自由な発想ができる教科書がよいと思いました。

結論から申し上げますと、G社、I社、J社の3社を選びました。

まずG社の教科書についてですが、簡潔な設問が設けられており、話合いの時間を十分にとれるつくりとなっているほか、心情円という図を用いて、自分の気持ちを可視化できる工夫もなされています。また、題材が中学生目線のものが多いため、中学生が読みやすいと思いました。

次にI社の教科書についてですが、「深めたいむ」のコーナーで、いじめや情報モラル、多様性などを題材とした記載があり、その内容がとても面白かったです。また、民主主義と多数決について考える題材など、他の教科書にはないものが掲載されており、生徒たちが興味をもって取り組んでくれると思います。

さらに、「どうやって学ぶの？」のコーナーでは、発達段階に応じた設問が設けられており、段階的に学ぶことができる工夫がよいと思いました。

最後にJ社の教科書についてですが、この教科書だけ作者の顔写真が掲載されています。個人の好みだと思いますが、私は顔写真が掲載されている教科書がよいと思いました。

また、「プラットホーム」の項目では、いじめについて、発達段階に応じた設問が設けられている点がよかったです。

道徳ノートについては、話し合ったことや整理したことを書き込み、振り返りができるよいツールだと思いますが、評価をつける教科ではないため、自己評価をつける点については気になりました。

○委員

私は、G社、H社、J社を選びました。

まず、G社の教科書についてですが、「つぶやき」のコーナーで、自由な考えを書き込めるため、主体的な学びにつながる工夫だと思いました。また、「ACTION!もし、あのときにもどれるのならば」のコーナーがあり、その中で「人間はおろかな判断をしがちです。しかし、「反省する力」、「自らを省みる力」をもっている理性的な存在でもあります。」という文章が記述されており、印象に残りました。また、巻末の心情円の円グラフで自分の心情を把握する取組も面白いと思いました。

次にH社の教科書についてですが、巻末資料の「都道府県にゆかりのある人物と、その言葉」で、生徒たちの将来を自分で考える上での大きな材料になり得るという印象を受けました。

最後にJ社の教科書についてですが、いじめと向き合う題材が用意されており、様々な学びにつなげるための工夫がなされていると思いました。

○教育長

道徳については、社会の一員として求められる共通のモラルを、生徒一人ひとりに深く考えてほしいこと、あわせて、1つの行為についても多様な見方があることを知り、多面的な見方のできる中学生になってほしいこと、そのような観点から3社を選択しました。G社、H社、J社です。

G社の教科書については、他社より判型が大きいのですが、その巻頭の両面見開きページで話合いの方法や目的を示した記述があり、道徳の授業とはどういう授業なのかということを生徒たちに示しているところは、よいつくりだと思います。

また、内容について、いじめ問題は深く考えさせる構成であってほしいのですが、例えば1年生の教科書に見開きで、昼休みの教室でクラス中の子どもたちが遊ぶ様子が描かれたイラストがあり、その中でいじめに当たる行為はどれかと考えさせる問いかけがあります。これは、生徒同士の意見交換が幾らでも深まる問いかけだと思わせる、工夫されたよい教科書だと思いました。

次にH社の教科書についてですが、1つ1つの題材の文章が短かく、生徒たちが内容を短時間で把握し、その分考える時間や話し合う時間を十分にとることのできるつくりだと思います。また、その教材の内容も現代的な課題が多く、生徒たちも向き合いやすいものになっています。

また、巻末に各都道府県にゆかりのある人物が残した言葉が掲載されていますが、中学生ともなると自分を支えてくれる言葉に出会いたいという欲求が生じる年頃ですので、これ自体はよいと思いました。ただ、その言葉に人物の顔写真が掲載されていないため、見た目が字ばかりで寂しい印象となり、もったいなく感じました。

最後にJ社の教科書についてですが、印象的な2つの図がありまして、1つは、道徳で学ぶ大きく4つの内容について、その関連性を表した図です。もう一つは、いじめの構造を表した図です。これらは生徒たちの理解を助け、さらによく考え、よく話し合うこと

につながるツールだと思います。

また、別冊の道徳ノートがあり、各教材について考え、話し合ったことをメモし、整理することができるようになっており、このノートを見れば、各自が自分の成長を振り返ることができるという点で有用であると思いました。

出ました意見を集約いたしますと、G社を推された方が5名全員、H社を推された方が4名、J社を推された方が3名、I社を推された方が1名、K社を推された方が1名となりました。

今回、道徳7社のうち、3社に絞り込みたいと考えており、推された方の人数により絞り込みますと、アルファベット順でG社、H社、J社ということによろしいでしょうか。

(各委員同意)

○教育長 それでは、道徳については3社に絞り込まれましたので、7月28日の協議で2社程度に絞り込みを行いまして、8月18日の協議で1社に絞るという日程でまいりたいと思います。

以上で、本日予定していた中学校教科用図書に係る協議については、終了いたします。

ここで、議事の都合上、暫時休憩とします。

(午前11時17分休憩)

(午前11時18分再開)

○教育長 休憩前に引き続き会議を開きます。
次に日程第2を議題とします。

(日程第2 報告事項 令和2年度目黒区教育委員会の権限に属する事務の
 管理及び執行の状況の点検及び評価(令和元年度分)
 報告書(案)について)

○説明員 (資料により説明)

○教育長 この件についてご質問等はありませんか。
特にないようですのでこの報告を受けました。
次に日程第3を議題とします。

(日程第3 報告事項 社会教育館等における利用申請及び施設使用料の支払期限延長について(新型コロナウイルス感染症拡大防止対応))

○説明員 (資料により説明)

○教育長 この件についてご質問等はございませんか。
特にないようですのでこの報告を受けました。
次に日程第4を議題とします。

(日程第4 報告事項 学校給食使用前食材等の放射性物質検査の結果について)

○教育長 この件についてご質問等はございませんか。
特にないようですのでこの報告を受けました。

○教育長 その他なにかございますか。
以上で本日の定例会を閉会します。

(午前11時31分閉会)